

令和4年度倉敷市立美術館協議会 議事録

1. **開催日時** 令和4年8月9日（火） 10時～12時
2. **開催場所** 倉敷市立美術館3階第2会議室
3. **協議事項**
 - (1) 令和3年度事業実績報告
 - (2) 令和4年度事業計画
4. **出席委員** 森川政典委員(会長)、玉置里美委員(副会長)、尾崎勝也委員
坂本万明委員、竹内京子委員、福富幸委員、前田淑子委員
森山知己委員
5. **会議録** 別紙のとおり
6. **出席職員** 井上教育長、早瀬教育次長、三宅生涯学習部長、坂田美術館長
杉野主幹、佐々木主任、尾上学芸員

令和4年度倉敷市立美術館協議会 議事録

〔令和4年8月9日（火） 10時～12時〕

- 開会のあいさつ** 井上教育長より開会のあいさつがなされた。
- 新委員の紹介** 新委員として事務局より竹内委員、福富委員、前田委員の紹介を行った。
- 会長・副会長の選任** 委員の互選により会長に森川委員が、副会長に玉置委員が選任された。
- 議 事** 議事の進行を事務局より森川会長に委ね、森川会長により会議が進められた。

（1）令和3年度事業報告

令和3年度事業報告について、事務局よりパワーポイントで説明。

会 長：令和3年度事業の実績ということのご報告を承りましたが、各委員の皆様方から、忌憚のないご意見をお伺いできればと思いますので、よろしく願い申し上げます。

委 員：いろいろな取り組みをされていると思って聞かせていただきました。
第1展示室の貸館事業がありますが、期間は年間通して切れ目なく埋まる感じですか。

美術館：大体埋まっております。

委 員：市民の方がこの時期に展覧会を行いたいと希望されるのですね。

美術館：展覧会1年前の月の第1日曜日に抽選会を行って、ご希望の日程を予約いただきますが、多い時には1つの枠に複数の希望があります。

委 員：ふらっと美術館に行って市民ギャラリーを拝見し、こんなものがあるのか、と思って楽しませていただいています。2階で開催している美術館主催の展覧会と相乗

効果になってよいと思います。

委員:一般のご家庭である、辻さんの所蔵品をまとめていただいたということですが、これは美術館の方に委託があるものですか？

美術館: 辻さんから美術館にお声がかかり、所蔵品を拝見させていただいたのですが、500点ほどあり、学芸員が1ヵ月に1度数回に渡りお宅に伺うなどして調査に時間がかかりました。

数点でもちょっと見てもらえないか、という依頼が年間何件もあり、それを見せていただきますが、美術館では作品鑑定や価格評価は行っていません。

委員:学芸員にはそれぞれ専門がありますが、依頼があるものはすべて見るのですか？

美術館: 一応拝見して、判らない時は他に専門の方を紹介する場合があります。

委員:テレビでも美術品鑑定の番組がありますが、一般市民に美術品への関心が非常に高いように見受けられます。通常作品展示に留まらず、こうした業務も美術館が果たす役割として、学芸員に期待する市民の声もこれからどんどんあがるでしょう。そういう情報をオープンにすると、仕事は忙しくなるでしょうが、もっと多くの相談が来ると思います。

美術館: 旧家の方で古い家を壊す際、家にあった作品を見てもらいたいという依頼があります。

美術館: 美術館のあり方は何か考える際、すぐ隣に世界的な美術館である大原美術館があるので、大原と同じことをしても意味がないと思います。

倉敷市の美術館ということで、皆様に絵を楽しんでいただくだけでなく、倉敷地域にある美術の掘り起こし、保存が一つの使命だと考えています。

倉敷市には古くからの伝承品も多くあり、そういうものを残していくのも、公立美術館の大きな役割だと思います。作品についての地域からのお問い合わせに対しては、積極的に出ていくようにしていますが、人的資源が限られているので、正式な業務として位置づけるまでには至っていません。将来的にはそういう調査・保存が大きな仕事になるでしょう。市の美術館としての仕事は、そちらの方が展覧会よりも重要になるのではないかとともに思います。

会 長：大原美術館にも個人から所蔵品についてのお問合せが多く来ますが、美術館のミッションからは外れるので、県立美術館、市立美術館へ問合せするようお勧めしています。

学芸員の方の活動は非常に地道で余り知られていませんが、地域への貢献になっています。大原では学芸員の顔写真をチラシに掲載し業務の説明を付け、県内外の企業の方に示すと高い関心を寄せられます。学芸員の仕事を市民の皆さんに知ってもらうのも大切ではないでしょうか。

委 員：「五味太郎作品展」には、幼稚園から展覧会に行くというので通園している孫が楽しみにしていて、楽しかったという感想も伝えてくれました。楽しい企画をありがとうございます。次世代の美術教育は非常に大切ではないかと思えます。

ひとつ伺いたいのですが、美術実技講座ではこどもは対象ではないと思いますが、参加者の年齢構成は高齢の方が多いでしょうか？

美術館：参加者の構成としては高齢の方が多いです。

委 員：音楽教室も同じで、退職後の方の受講が増えています。作品を見るだけでなく描く方の触れ合いが増えていくことも、美術に関心のある方にはうれしいのではないかと思います。

委 員：コロナ禍の影響で会期変更、人数制限の中、たくさんの事業を行っておられると拝見しました。おうちミュージアムや公式ツイッター・インスタグラムの開設などWEB上の活動も色々されていますが、ツイッター・インスタグラムの効果はいかがでしょう。いいね！やフォロワーなどはどれぐらいありますか？

美術館：インスタグラムは今 300 人近くフォロワーがいます。SNSによる集客で有名な森美術館と比べると微々たるものですが、じわじわ増えています。ツイッターはそれに比べると 90 人程度です。

委 員：五味太郎さんの展覧会は皆さんにチラシを渡しやすい、いい企画なのでうれしかったです。

ところで 3 階の遙邨コーナー展示が小さいので、来館者にお知らせするには少し寂しい気がします。もし図書館の移転により美術館が変わるようなことがあれば、コレクション展示スペースが広くなればいいなと思います。

ところで恐竜展開会式とオープニングイベントに他のボランティアと一緒に参加し

たのですが、階段を上がってすぐ右手の第2展示室に恐竜展の会場があるかと思ったら、左側の第3展示室でした。第2展示室と第3展示室の区別があるのかな？と思ったのと、恐竜展の会場が狭い感じがしました。

美術館： 遙邨作品は日本画なので、ケース内展示をする必要があります。そうした事情から第2展示室を遙邨展会場としています。

面積的には第2展示室より第3展示室の方が若干広く、また、照明も第2展示室ではスポット対応のみで暗い感じがしますが、第3展示室は埋め込み式の蛍光灯があるため、かなり明るくなります。

人間の行動として、階段を上がっていくとつい右に回るようになるので、恐竜展に来る来館者が第2展示室の方に向かいがちですが、絵画や工芸作品等の展示は第2展示室に、今回の恐竜展のようなイベント的な催しは、展示ケースが一切無い第3展示室で実施することが多いです。

委員： 他の委員の方からも第1展示室の利用状況についてお話しがありましたが、コロナ禍や利用される団体の高齢化の影響が気になります。単年度としては展示室が埋まるようになっていますが、ここ数年の傾向としてはどうなっているのでしょうか？

美術館： コロナという特集要因を除けば、長い目で見ればそう変化はありません。利用者が高齢化で少なくなってきたという様子ではなく、人気のある時期は抽選で利用団体を決めます。

委員： なぜこのようなことをお訊きするかというと、天神山文化プラザではコロナによる休館・使用中止のせいで利用者の方でエネルギーがなくなり、長い間使ってくださっていたところが利用を辞退することが相次いだからです。公募団体は特に構成員の高齢化が著しく、問題になっています。若い世代と施設を繋ぐ方法を何か考えないといけないと思っている所です。

今の若い世代は日常的にスマホに触れて情報を得ていますし、小・中学校ではGIGAスクール構想が進み、ネットから情報を得るのが主流になっています。新しい情報はどんどん入っていくのですが、それ以外のものがないというか、古いものや伝統を学ぼうという所がありません。私の世代では大原美術館が身近にあり、大原の作品から美術を学びましたが、現在では他の情報がたくさんあって重要度が代わっていくように感じます。世の中が変わっていく中で、何を残していくのか明確にして、古いものと新しいものを結んでいく必要があるのではないのでしょうか。

倉敷市立美術館では市民ギャラリーでの利用者数も一定を保っているとのことで、

さすが文化の街倉敷と感じました。

副会長：そうは言っても、市民ギャラリーに申し込む団体は減ってきているのではないのでしょうか。私自身申し込む側の人間として、20年以上やってきた日本画グループの展示会を今回限りにしました。団体員の高齢化と、コロナのため計画してはキャンセルをし、休館により中止になりということが相次ぎ、やっと今年6月、天神山文化プラザで展示会を実施したのですが、こうした状況もあってこれから毎年企画していくのはしんどいということでした。やはりこの美術館でもじわっとそういうことは出てきているのではないかと実感しています

入場者数を拝見すると、コロナ禍が落ち着いてきたことと、美術館の努力のかいもあって、前年度に比べると徐々に増えてきています。HPはとても拡充したように思っ
て拝見しておりますが、そんなこともあって入場者数が増えてきているのではないかと
思います。今の若い人達はテレビや新聞、紙媒体を見ず、スマホ、ネットから情報
を得て行動しています。いい企画を美術館でたくさんされていますが、こういった方
法で広報し、また、こういった媒体を中心に広報活動をされているのですか？

美術館：昔からの方法として、ポスターやチラシを主だった施設に配布したり、報道へ
お知らせしています。また、HPやSNSでの発信などもしています。催しの情報を知っ
ていたら来るのに、ということも聞きますので、何が本当に皆さんの目に届くのか研
究していきたいと思えます。

広報活動の基本は倉敷市の広報紙なのですが、広報紙を見ない人が多いような時代
になったので、広報の主体は変えていく必要を感じています。

会 長：恐竜展のオープンの日に、昼食を1階の喫茶に食べに来ると混雑していて、今
日もこちらに来るとご家族の方で満席でした。多くの人に来ていただいている展覧会
だと感じました。

(2) 令和4年度事業計画

令和4年度事業計画について、事務局より資料に従って説明。

会 長：令和4年度の事業計画ということで、事務局より説明をいただきました。また
各委員よりご意見を伺いたいと思えます。

委 員：先ほど他の委員の方が恐竜美術展について話されていましたが、会場が少しと
窮屈というか、もったいないというか、端っこの方に押し寄せられたような作品もあ
ったように感じます。壁面に展示しているケータさんの大きな作品も、あれだけをず

っと広げて見せるのもいいのではないか、それともこれぐらいぎゅっと縮めた方が展示としてはいいのだろうか、そんなことを思いながら拝見しました。

こちらの美術館でツイッターやインスタグラムをされているとは存じ上げず、先ほど拝見したのですが、色々発信されていると感心しました。情報を伝えることが大事だと思います。文化を守っていく、伝えることが大事ですね。私も池田遙邨がどんな人か、プロフィールを見たのは去年が初めてです。そうした情報を知る機会や伝えることが大事だと感じさせていただきました。今年もぜひ伝える方を頑張ってください。

委員：棟方志功サミットに興味を持っています。中野区との関りがよく判らないですが、青森市、南砺市、杉並区と、どこも棟方志功にゆかりの深い土地ですね。倉敷には大原家に大変な貴重な作品が残されています。私の前の職場である KCT で、棟方の 30 分番組を 2 本ほど作り、また、生誕 100 年の時大原美術館に 2 回ほど取材に伺いました。南砺ではお寺に疎開していて、地元の人からも支持を得ていたと感じました。倉敷では大原美術館との関係が強いだろうから、大原への協力を仰ぎながら、地域での棟方の足跡も辿っていただきたいものです。棟方の代表的な技法である裏彩色は青森のねぶたからの影響があるということも、取材をしていて学芸員の方から聞きました。地域をあげてもっとまきこんで、KCT の映像も活用して展開してほしいものです。

美術館：青森は棟方の生誕の地で、中野は戦前に活躍した地です。戦中に南砺に疎開し、戦後活躍した終焉の地は杉並です。大原家との繋がり、棟方は倉敷に何度も訪れています。

はじめ青森市からサミットへの参加を提案された時、倉敷市は棟方の作品を持っていないので、参加する資格があるのかという話も出ました。市長は市として作品を持っていなくても、倉敷の地に作品があるのなら、参加すべきだという意見でした。大原美術館には 100%ご協力いただき、サミットを一緒にやっていきたいと考えております。

市民にどう広報するかが問題ですが、コロナ禍の最中なので、あまり大勢も集められず、何人ぐらいの大会にするか検討中です。

委員：「アートのまち倉敷」を全面に打ち出し、大々的に開催してはどうでしょうか。番組を作る際に判ったのですが、棟方の作品は一般の家庭に結構残っていて、代表作の「釈迦十大弟子二菩薩」が実は一般家庭にあり、そこを取材に回りました。油絵も市民が持っています。欄干で刷ったものを投げ売りのように売っていたようです。

会 長：大原美術館としても最大限の協力をしたいですね。

委 員：コロナが始まった時、コンサートは本当にもっとも危険な場所と認識されてしまい、もともと音響のことを考えると密閉された空間でなければ、ということでコンサート会場は最悪の場所と認識され、音楽関係者は悲嘆にくれました。美術館はそれに比べて時間を分散できるからいいなという話が音楽関係者の中で出ました。コンサートは限られた時間の中で数百、数千人の人が場を共有しますが、美術展では人気で行列ができるものは時間を決めて入場制限をし、事前申し込みなどもして開催されている。そんな話をしておりました。

集客についてですが、演奏会はコンサート会場で相互に情報を共有し、お客様に情報提供をしてシェアするのが主流でしたが、昨今では紙媒体をお持ち帰りにならないので、SNS 中心の宣伝になっています。私の勤務する大学でもできるだけ高校生、保護者に大学の活動がふれるよう、インスタ部を作って広報しています。先日、より大勢の人が情報を見るよう、広告料を払って SNS で広告したのですが逆効果で、むしろ閲覧数は減りました。インスタを見ている時、広告という文字がでるとその情報が飛ばされてしまうのです。意外にも、地道に人と人の繋がりが大事で、結局口コミに戻るのだということが判りました。家族で会話していて、あのインスタが面白かった、ということで見てみるケースも少なくありません。SNS を活用はしますが、それにお任せでなく、対面での何気ない会話からフォロワーが増えるのだと思いました。すぐに爆発的に増えるは難しいですが、失敗を通して SNS について考えが固まっていたと気づきました。

会 長：確かに昨今、SNS 抜きにしては話題が届かないですね。

委 員：私が気になっている点として、遙邨コレクションは大変素晴らしく、3階ロビーでも展示しているのですが、いつも遙邨という印象を受け止められがちです。同じものではない、ということが情報として伝えられているか疑問です。いい作家ではあるのですが、売り出し方というか、PR の仕方が不十分ではないでしょうか。展覧会タイトルやサブタイトルが、キャッチーで伝わりやすいものになればいいのではないのでしょうか。面白いと思わせるタイトル、コピーが大事ではないかと思います。他館の例では、ここ2、3年、林原美術館がうまいタイトル、キャッチコピーをつけています。

遙邨さんはいいなと感じさせる、魅力を伝える見せ方が必要ではないでしょうか。倉敷市立美術館の目玉である遙邨の作品群を、面白く楽しく伝えられるような、美術館に足を運ばせるような工夫を何かできるのではないかと思います。

岡山県立美術館ではここ数年間、「みんなの参観日」という企画を実施し、県内の学校の先生にご参加いただいているのですが、古くから「倉敷っ子美術展」をされている倉敷の先生方は、倉敷っ子のために準備されているという熱い思いを持っておられるのを感じました。何がしかの形で美術館が学校現場に関わっていけるような機会はないのでしょうか？37回も続く「倉敷っ子美術展」への関り方について、歴史があるし先生の熱意もあるので、今後考えがあるのかお聞きしたいですね。

また、棟方志功サミットがとても興味深いです。こうしたサミットが開催されてきたことを知らなかったのがショックですが、最近、オンラインで視聴できる遠隔と現地で対面の形式の両方を実施するハイブリッドで開催されるサミットが多くなってきています。コロナ禍でよかったのは、こうしたオンラインの機会が増えたことです。対面だけでなく、ハイブリッドでもっと広く配信していくことは考えられていないでしょうか。昨今では、オンデマンドで1週間見られるようなものもあります。倉敷でのサミットについて、オンラインでの配信も検討していただければと思います。

美術館：まず「倉敷っ子美術展」への関り方についてですが、数年前「倉敷っ子」会期中に開催するコレクション展を「こどものための池田遙邨展」や「こどもびじゅつかん」と題して子ども対象の内容にして、学校現場に「倉敷っ子」にあわせて団体鑑賞を呼びかけるなどの試みを何度か行いました。また、コロナ禍の前には対話型鑑賞を広める活動を岡山県内で行っている一般社団法人「みるを楽しむ！アートナビ岡山」にご協力いただき、学校現場に声掛けをして「倉敷っ子」の団体鑑賞にあわせてコレクション展での対話型鑑賞会にご参加いただきました。現在鑑賞会は休止しておりますが、コロナ感染拡大が収まり次第再開できればと考えております。

また、遙邨の魅力を伝えるという点についてですが、3階の遙邨コーナーでは各担当学芸員が様々なテーマで作品を紹介しています。スペースの小ささを逆に利用して、小さな作品で第2展示室の大きな空間では今まで出せなかったような作品を紹介し、あわせて膨大な数のスケッチを各担当があらたに掘り起こして展示するなど、これまで紹介できなかった部分に光を当てています。ただ、そういった面をうまくアピールできていないのは事実であり、まずは市民に興味を持ってもらい、来ていただくための努力がいきます。来館者がどういうことに興味を持って動いているか研究していきたいと思います。

委員：棟方志功サミットはぜひ、ハイブリッドで開催してほしいですね。オンライン配信があると、現地に行けなくてもサミットを視聴できるので、多くの人に参加できます。

会 長：全国にこのサミットを配信して広く知ってもらおうチャンスですね。

遙邨展のキャッチーなコピーを考えられるといかがでしょうか。林原美術館の谷館長もよく考えているなと思います。そのへんの情報を参考にしながら考えていただければよいでしょう。

棟方サミットにおけるハイブリッドでの開催の計画はありますか？

教育委員会：ハイブリッドでの開催について、昨今ズームなどで様々な所で開催されていますが、登壇いただく方の肖像権の問題等あってネット配信は考えておらず、今回は対面のみでの開催を予定しております。今回の倉敷会場でサミットは一巡する訳ですが、今後青森や南砺で開催される際にはそうした話を提案してもよいかもしれません。今回はご容赦いただければと思います。

委 員：遙邨の膨大な作品から、様々な切り口で新しい作品を見せていただき、色々な発見があるので、学芸員の皆様のご苦勞に感謝いたします。

ところでこちらの美術館では高梁川流域の芸術文化については、すべての領域を対象とされているのでしょうか。岡山県立美術館では高木聖鶴展が開催されましたが、高木さんの作品は展示や収蔵の対象になりうるのですか？

話は変わりますが、先日 NHK の番組で国立西洋美術館の方が「美術館は家庭や仕事の役割から離れて安心して一人でいられる場所」と話されるのを聞いて、運営の側からの美術館の役割について、見る側の方としても共感できました。知人とも話をするのですが、1階エントランスホールに足を踏み入れた時のほっとする心地よい感が、この美術館の魅力の一つだと思います。美術作品ありきですが、美術館に来てもらうための2番目のキャッチーなコピーとして、丹下建築の魅力を伝えてはどうでしょうか。1階ホールで心を癒す人がいると聞いたことがあるのをお伝えしたかったのです。

美術館：当館では書を専門にしている学芸員がいないため、高木聖鶴にはなかなか取り組めないのが現状です。岡山県立美術館で大きな展覧会を開催されたので、まずは県立美術館に顕彰いただけたらと思います。資料の蓄積は続けたいと思いますが、作品収蔵や展覧会などについては当館としては背負いかねる部分があります。

委 員：大学も教育機関としての役割はありますが、まず人を集めないと運営ができないので、学生の獲得に苦心しています。紙媒体で伝えるのが難しいので、SNS を活用する方向で動いていますが、先ほど委員の方がお話しされた、SNS に広告に出すということは本学でも問題になりました。結論としては一方的に発信するだけではなくて、誰かに褒めてもらって広がっていくような情報発信の仕方が必要になるでしょう。あ

そこにいったらいいことをやっているよ、というような情報を発信していく工夫がいろいろあります。

情報は溢れているのですが次々と新しいものに置き換えられていく現代では、価値が継続的になく、残していきたい価値あるものについては伝えていく努力が必要です。今に合った価値の更新をどうしていくかが非常に重要になります。私たちの世代は、大原美術館の作品を見ることでアートに興味をわいた大原チルドレンで、大原では西洋美術の価値が伝えられています。ただ、今の若い世代が美術館に行って作品に触れる機会がどんどん減ってきています。いつ行っても同じ絵が見られる、というのも大事ですが、大原では今にあわせた伝え方も工夫されていると感じます。

美術館・博物館に関する法律の改正がこの4月に成立しましたが、それを受けて地域に対して美術館はどう関わっていくか、考える必要があります。市民みんなに応援してもらえる美術館にするにはどうしたらよいのか。本学としては地域に学生と出て様々な活動をし、地域愛を育てる試みを行っていますが、そうしないと昔からあるアートが廃れていくのです。現在でも日本画に用いる和紙を漉く人や筆の作り手がいなくなってきています。大事なものを残すには、何か届く言葉を発信していかないとけません。

副会長：確かにまず、美術館にある作品を見に行きたいと思うとっかかりになるようなキャッチーなコピーを考えていただく必要がありますね。

遙邨作品には付加価値が多いと思います。作品の中に登場する動物など、フィギュアにしてはいかがでしょうか。最近、美術作品のモチーフをフィギュアにしたものをいただいてからフィギュアにはまって集めています。遙邨作品のキャラクターがあればフィギュアがほしいですね。今流行りのガチャにすると、若い方や子どもさんにもアピールすると思います。

会 長：各委員の皆様から貴重な意見をいただき、ありがとうございます。美術館にはコロナ禍の中ですが、新しい切り口やキャッチーなコピーなど、色々工夫いただきたいものです。また、これまで背負ってきた歴史と、手作りの部分の技術がなくなっていくのが惜しいと思いますので、地域の方々を巻き込んで様々な活動をしていただきたいです。地域への働きかけについては今回に始まったことではありませんが、コロナで改めてクローズアップされています。今回の協議会が、問題提起の場として何かひとつでもフックになればと思います。

副会長：議事のその他の項目としてお伺いしますが、昨年美術館協議会で令和7年度に隣接する図書館・博物館が移転するという話を伺いましたが、日程について変更が

あるでしょうか？そうした場合、美術館として新たにこうしたことを考えている、ということがあれば教えていただきたいのですが。

美術館：まだ細かい日程までは決まっておりません。昨年度は令和7年にとっていました。今年度の2月議会では移転は令和9年以降という話になっています。予定が2年伸びたのですが、国の補助金を使って工事を行うため、床面積が減らないといけなないので、図書館が移転した後は図書館の建物を撤去し、美術館の建物だけが残る予定です。そうなった時に美術館としては、委員の先生のご意見にもありましたが、常設コーナーのスペースがとれればと思っています。この施設が美術館になってから40年近く経ち、設備関係が非常に古くなっているため、大改修が必要となっています。展示室の壁面が古くて作品の鑑賞に妨げになるという声も市民からいただいているので、壁面の張替えも考えています。

また、図書館・博物館の移転後、美術館の施設がひとつだけ残ったら、周辺整備をして美術館に人を誘導できるような整備をお願いする予定です。さらに収蔵庫にも問題があり、地域の美術の掘り起こしと保存のためには、今はキャパシティが一杯なので、収蔵庫の拡張も課題として提案していきたいと考えています。

個人的には、令和9年の前後1年辺りが美術館改修の時期になると思われませんが、市全体の大きな動きの中でのことになるでしょう。その際美術館としては、設備改修、収蔵庫増設、遙邨常設スペース設置などが課題と考えています。

令和3年度の事業報告および令和4年度の事業計画に関して、満場一致で承認された。

閉 会

上記のとおり相違ありません。

令和 4年 8月13日

倉敷市立美術館協議会

会 長 森川 政典